

ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニュースレター（日本語版）, No.75, February 2011

ARSC 事務局：〒113 - 0033 東京都文京区本郷 7 丁目 3 番 1 号
東京大学経済学部 田淵研究室
応用地域学会事務局 文部省学会コード=10023
会長：田淵隆俊 担当：宮本成雄
TEL: (03)5841-5603
FAX: (03)5841-5521
E-mail : clerk@arsc.org

主要項目： 第 24 回研究発表大会報告
2010 年度坂下賞
2011・2012 年度 副会長選挙について
第 25 回研究発表大会のご案内
第 2 回アジア地域科学セミナーのご案内
会員の入退会について
2011 年度会費納入のお願い
総会報告
事務局だより

1. 第 24 回研究発表大会報告

大会実行委員長：黒田達朗（名古屋大学）

今年度の研究発表大会は、2010 年 12 月 4 日（土）、5 日（日）の二日間にわたり名古屋大学東山キャンパスで開催されました。大会の実施・運営は、No. 73 のニューズレターでもご案内の通り、私を委員長とする大会実行委員会と、赤松隆教授（東北大学）を委員長とするプログラム委員会が担当しました。

本大会の開催に当たっては、大幸財団から補助を頂戴したほか、名古屋観光コンベンションビューローより地元紹介用の配付資料をご提供頂きました。また、通常の研究発表以外に、一般公開シンポジウムとして「中央リニア新幹線とこれからの中部地域」を開催しましたが、愛知県、中部経済連合会、名古屋商工会議所、中部産業・地域活性化センターからご後援を頂きました。

以下では、今回開催された行事の内容をそれぞれ簡単にご報告します。

1. 研究発表大会

今回は計 88 編の研究報告があり、これまで開催された年次大会の中では最大規模の研究発表となりました。まず 5 つの特定企画セッションが開かれました。従来から A R S C の中心的なテーマである「集積の経済」や「交通問題」に加えて、今回は少子高齢化やそれによって引き起こされる社会保障等の問題へのアプローチとして期待されている世代重複モデルを主体とした「人口経済学的アプローチ」、2011 年に名古屋で開催される「International Symposium on Locational Decisions」を記念した「ISOLDE 2011」、私が所属する環境学研究科が日本で最も規模の大きい当該分野の大学院ということもあり「環境政策の経済分析」などが特定企画セッションとして開催され、招待された学会員以外の研究者とも活発な研究討論、意見交換が行われました。

同様に一般の報告申込により構成された他のセッションも、「便益評価」、「地域問題」、「都市経済学」などの伝統的テーマに加えて、近年 A R S C の中心的な研究領域として注目を集めている「空間経済学」、「空間統計分析」、「SCGE 分析」などのセッションが多く持たれました。さらに、そのほかにも、実社会の問題意識を反映した「子育て・介護政策」や「環境政策」に期せずして多くの論文が集まり、会員の指向する研究分野もわが国の抱える現実の問題に敏感に反応することを改めて確認することができました。「Early Bird」の 4 つのセッションは大学院生の単著の論文を集めた企画で、Job Market としての機能も有していますが、本格的な研究を開始した若手にベテランの研究者が種々のサジェスションを与えつつ、独り立ちした研究者として育つよう鼓舞する場でもあります。今回も計 7 編の有望な報告があり、討論者やフロアの参加者から活発な意見が寄せられていました。

今回は、例年開催される「シンクタンクセッション」は残念ながらありませんでしたが、法人会員のご意見も頂きながら、今後新たな企画を立てる必要があるかと思えます。これら、通常の研究発表会には約 200 名の参加者がありました。

2. 公開シンポジウム

例年の大会では地元の産業振興等に関するテーマでシンポジウムや特定セッションが行われることが多いのですが、今回は丁度国土交通省・交通政策審議会で中央新幹線計画の概要が判明しつつあるタイミングを捉えて、「中央リニア新幹線とこれからの中部地域」と題するシンポジウムを一般公開で行うこととしました。シンポジウムは、まず私が趣旨説明を行った後、J R 東海の宇野護取締役役に「超電導リニアによる中央新幹線の実現について」と題して現在の計画を具体的に説明して頂いたあと、奥野信宏教授（中京大学）の司会で、宇野氏のほか神尾隆中部経済連合会前副会長、山田周司愛知県地域振興部長、A R S C の元会長でもある森杉壽芳教授（日本大学）を交えてパネルディスカッションを行いました。議論の内容は、中央新幹線の完成によって企業立地・人口分布がどう変化するか、その日本経済へ与える影響、名古屋大都市圏のあるべき姿等、多岐に渡りましたが、これまで新聞報道等でしか知るすべの無かった大規模プロジェクトの具体的説明を直接聞き、最も大きな影響を受けることとなる中部圏がこれから何を考えて受け入れ準備を進めればよいかといった心構えを、約 170 名の参加者各自が持つ良い機会になったと思われます。また、同プロジェク

トへの関心の高さを示すように、会場には地元を中心に数社の新聞記者が取材のため訪れ、シンポジウムの模様が翌日報道されました。

3. 坂下賞受賞記念講演

今回は2009年度受賞者の松島格也准教授（京都大学）が「意思決定の自由度とコミットメントの価値を考慮した交通料金差別化施策」と題して講演しました。内容は、土木計画学、交通経済学の各分野において、従来、十分な注意が向けられていなかった市場の不完全性（マッチング・戦略的補完性等の外部性，不確実性）に着目して交通市場のメカニズムを改めて具体的に解析し，そこに内在する外部性の存在とその克服方法について分析したもので、現実の地域・交通政策に有益な示唆を与えるものです。

4. 総会

初日の17時20分から18時まで2010年度の総会が開かれました。2009年度活動報告及び学会活動方針、会員異動報告、2009年度決算および2011年度予算が承認されました。

また、2010年度の坂下賞が小川光教授（名古屋大学）に与えられることに決定したことが、選考委員会委員長の金本良嗣教授（東京大学）より報告されるとともに、総会終了後、その授賞式が執り行われました。受賞理由は、都市・地域経済学の中でも、もっとも伝統的かつ中心的なテーマの一つである地方公共財の供給問題等を題材としつつ、古典的な定理の再検討を中心に精力的な研究を続けており、数多くの業績を挙げているというものです。

なお、2011年度研究発表大会は富山大学で、また2011年度アジア地域科学セミナーは東北大学で、それぞれ開催されることとなりました。

2. 2010年度坂下賞 (Sakashita Prize)

2010年度坂下賞選考委員会 委員長 金本良嗣(東京大学)

2010年度の坂下賞については、選考委員会の慎重なる議論を経、以下のように小川光氏（名古屋大学）に決定しました。

2010年度坂下賞

受賞者：小川 光

（名古屋大学大学院経済学研究科 教授、1970年6月生）

授賞理由：小川光氏は公共経済学、地方財政、都市経済学等の分野で幅広い研究活動を展開しているが、最大の貢献は、地域間のスピルオーバーに焦点を当てた地域政府間の財政競争に関する一連の研究である。その主要なものは以下の3つの論文である。

2006年の *Annals of Regional Science*（単著）は、地方公共財の便益が地域外にスピルオーバーする可能性と、地域間競争における財政上の外部性の双方を考慮し、資本税競争モデルにおいてスピルオーバー効果が存在する場合には、財政上の外部性を原因にした資源配分の歪みがむしろ

小さくなることを明らかにした。モデルの中で取り上げられている2つの要素がいずれも公共財の過少供給の原因になるものであるにも関わらず、両者が同時に存在することによって、過少供給の度合いが逆に小さくなるという興味深い結論を得ている。

2007年のFinanz Archivの論文(単著)は、Depater and Myers (1994, JUE)を拡張したものである。Depater and Myersは、「初期の資本保有量に差がある2つの非同質的な国が資本税競争を行う場合には、資本輸入国がプラスの資本税率を設定し、資本輸出国はマイナスの資本税率を設定する」ことを示した。しかし、現実にはその逆のケースも観察される。この論文では公共財の国際的なスピルオーバー現象を導入することにより、スピルオーバー効果の大きさに応じて、Depater and Myersが扱った資本輸入国が正、資本輸出国が負の税率を選択する場合に加え、両国ともに正の税率を設定する場合、両国ともにマイナスの税率を設定する場合が均衡となりうることを示した。

2009年のAmerican Economic Reviewの論文はDavid Wildasinとの共著であるが、地方公共財のスピルオーバー現象を対象として、「外部性が存在すると経済の資源配分は歪んだものになる」という常識的な見解が必ずしも成立しない場合があることを示した。具体的には、資本の国際的移動が自由な状況での財政競争モデルにおいては、例えば公害等の「外部性の生産関数」が各国で異なることが資源配分を歪ませる基本的原因であって、外部性の存在自体が資源配分を歪ませる原因にはならないことなどを明らかにしたものである。

これらの研究成果からわかるように、小川光氏は地域科学ないし都市・地域経済学の中でも、最も伝統的かつ中心的なテーマの一つである地方公共財の供給問題等をテーマとしつつ、古典的な定理の再検討を中心に精力的な研究を続けており、数多くの優れた業績をあげている。以上より、2010年度坂下賞の受賞者として、小川光氏が相応しいと判断された。

2010年度坂下賞選考委員会

委員長	金本 良嗣	(東京大学)
委員	赤松 隆	(東北大学)
委員	佐々木公明	(尚絅大学)
委員	田淵 隆俊	(ARSC 会長)
委員	黒田 達朗	(ARSC 副会長)

坂下賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、小川 光氏には、田淵隆俊会長から、表彰状(盾)と金一封が授与されました。

3. 2011・2012年度副会長選挙について

選挙管理委員	高橋孝明	(東京大学)
	河端瑞貴	(東京大学)

下記のように次期副会長選挙を行います。この副会長選挙の管理委員は、応用地域学会選挙内規Ⅱ第3条に従い、会長指名により、東京大学の高橋と河端の両名が務めます。

応用地域学会会則第7条により、現会長田淵隆俊先生（東京大学）の任期が2011年3月31日で満了となり、引き続き、現副会長黒田達朗先生（名古屋大学）が会長に就任されます。それに伴いまして、次期副会長の選出を、会則第7条および選挙内規Ⅱに基き実施いたします。運営委員による無記名2名連記の投票の結果、次の3名の方が次期副会長候補者に決定いたしました（苗字アイウエオ順、敬称略）。

貝山 道博（山形大学）

中村 良平（岡山大学）

文 世一（京都大学）

よって、下記の要領で副会長選挙を行います。

会則第7条および選挙内規Ⅱでは、**全会員の無記名单記の投票を定めております**。投票はがきを送付します。投票はがきには、上記候補者の氏名があらかじめ印刷されています。次期副会長に適任であると思われる方一名に、**○を付してご投函ください**。なお、**投票の締切は3月5日（当日消印有効）**です。会則7条は、副会長の次期会長への自動昇任を規定しております。今回選出される副会長の任期は2011年4月～2013年3月となり、会長としての任期は2013年4月～2015年3月となります。

4. 第25回研究発表大会のご案内

2011年度のARSC研究発表大会は、富山大学において、岩田真一郎先生（富山大学）を大会実行委員長として下記要領にて実施します。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 程：2011年12月3日（土）、4日（日）

（総会、懇親会は12月3日を予定）

会 場：富山大学キャンパス

発表申込み〆切：2011年9月中旬（予定）

論文提出〆切：2011年11月中旬（予定）

お問合せ：ARSC事務局

（発表申込先および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS 次号（6月発行予定）、メーリングリスト、ホームページ（予定）で、ご案内していきます。）

5. 第2回アジア地域科学セミナーの開催について

12月の総会でも紹介されたように、これまで、3回、中国地域学会（RSAC）と共同開催してきた地域科学に関する日中共同セミナーは、2010年度から、広くアジア地域に広げ、アジア地域の地域科学の発展と研究交流の場としてスタートしました。

2011年度は、第2回アジア地域科学セミナーを下記のように東北大学(日本 仙台市)で開催いたします。多数の参加をお待ちしています。開催内容、参加申し込み等の詳細は、確定次第、ホームページ、メーリングリスト等で順次お知らせしていきます。

第2回アジア地域科学セミナー

場 所；東北大学(大学院情報科学研究科棟) (日本 仙台市)

開催日；2011年10月1日(土)、2日(日)

参加申込；2011年5月31日

発表論文提出；2011年8月31日

ARSC 担当者；曾 道智(東北大学)

2010年度の第1回アジア地域セミナーは、2010年9月11日(土)、12日(日)の二日間、中国北京大学で開催されました。日本からの参加者は、28名、発表論文は、日本応用地域学会(ARSC)関連で20論文、合わせて38論文ありました。ARSCとRSAC(中国地域学会)の会長挨拶に始まり、各セッションに分かれての発表と討論が2日間にわたって展開されました。各セッションとも活発な議論が展開され、アジアの地域科学に関する研究交流の大きな弾みとなっていることが感じられました。

6. 事務局運営について

会員皆様の便宜向上と事務局業務の効率化を図るため、会員管理システムを導入します。同時に、ニューズレターのメール配信など、事務局業務の簡素化を図っていきます。

- ① この管理システム導入により、会員名簿の閲覧、会員情報・メーリングリスト変更・申し込み、入退会申し込み等は、web上(ARSCホームページよりアクセス)からできるようになります。
- ② 事務局は、会員からの会員情報変更・入退会情報を受け、その確認承認や、システムの機能を用いて、機関紙送付リスト作成、RSAIメンバーリスト作成送信、メーリングリスト更新、会費納入の集計・チェック・請求書作成等の業務が効率的に行えるようになります。
- ③ ニューズレターは、メール配信すると共に、ホームページに掲載するようにします(昨年秋の秋ニューズレターNo.74から実施しております)。(ハードコピーの郵送配布は原則廃止、希望者のみに郵送)。現在は、ARSCメーリングリスト登録者のみにメール配信していますが、管理システム運用後は、メールアドレス登録者全員に配信するようになりたいと思います。ニューズレターのハードコピーを必要とされる方は、申し出ください。
- ④ 管理システムは、2011年4月から運用できるように準備を進めています。

7. 会員の入退会について

2010年度総会(2010年12月4日)において、前回総会以降に入会を申し込まれた方々、また、前回総会で紹介されなかった以下の方々について、入退会が承認されました(順不同・敬称略)。

入会

一般 20名

日原勝也(東京大学)、中山晶一郎(金沢大学)、寺崎友芳(日本政策投資銀行)、中川訓範(釧路公立大学)、石橋郁雄(大阪大学)、碓井健寛(創価大学)、焼田党(名古屋市立大学)、野崎道哉((財)中部産業・地域活性化センター)、宮沢和俊(同志社大学)、佐々木美裕(南山大学)、大森達也(三重中京大学)、平澤誠(名古屋大学)、中田実(名古屋大学)、井上亮(東北大学)、佐藤真行(京都大学)、服部圭介(大阪経済大学)、中村大輔(国際東アジア研究センター)、鈴木敦夫(南山大学)、中野牧子(名古屋大学)、田中勝也(滋賀大学)

学生 17名

村上大輔(筑波大学)、橋本賢一(明海大学)、山本俊(青森公立大学)、堀野功(大阪大学)、大城淳(大阪大学)、田中亨憲(大阪大学)、呉蕾(立命館大学)、和田健太郎(東北大学)、鄭丹(名古屋大学)、小笹俊成(広島大学)、小坂直哉(東北大学)、山田恵里(名古屋大学)、川田恵介(大阪大学)、屈超(東北大学)、池内健太(一橋大学)、長澤明人(東北大学)、彭雪(北九州市立大学)

同時に以下の方々の退会が承認されました(敬称略)。

退会

本人の申し出によるもの(11名)

錦見浩司(アジア経済研究所)、平修久(聖学院大学)、谷沢弘毅(札幌学院大学)、秋元伸裕((財)計量計画研究所)、今井健一(近畿大学)、今野恵喜(八戸工業高等専門学校)、兒山真也(兵庫県立大学)、丸山直樹(リスラプ・ソート・マネジメント(株))、平田晋一((財)計量計画研究所)、向井信一(同志社大学)、木村洋史(筑波大学)

この結果、2010年12月5日現在の会員数は、個人会員が、一般会員 403名、学生会員 54名、海外会員 8名、賛助会員 10機関(計14口)となります。

		2009年1月	入会	退会	転格	2009年11月	
個人会員	一般会員	387	20	-9	5	403	(連絡不通3, 休会1含)
	学生会員	43	17	-2	-4	54	(連絡不通1含)
	海外会員	9	0	0	-1	8	
	合計	439	37	-11	0	465	
賛助会員		10	0	0	0	10	(14口)

8. 2011 年度会費納入のお願い

会員データベースに基づいて発行された請求書をお送りします。ご請求額を 2011 年 3 月 31 日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。また、この請求額について疑義のある場合には、学会事務局までお問い合わせ下さい(clerk@arsc.org)。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の内訳(対象年度等)を必ずご記入下さい。(振込用紙は、請求書に同封して、送付いたします。)

(1) ARSC 会費

2011 年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)は、ARSC 年報(応用地域学研究)を購読される場合\$80、購読されない場合\$60 です(RURDS は、全員に配布)。なお、海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出された US ドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

(2) RSAI (国際地域学会) 会費

RSAI 会費につきましては、2011 年度より、下記のようになります(改定しました)。

RSAI の年会費は、会員に対するサービス内容に対応して以下の通り、A、B の 2 種類あります。サービス内容をご確認の上申し込みください。

RSAI 会員のサービス等は、Wiley-Blackwell 社を通じて行われています。ジャーナル“Papers in Regional Science”も、Wiley Interscience 上で閲覧できるようオンライン化されています。(Papers in Regional Science は、印刷冊子としての購読もできます)

○ジャーナルの印刷物を郵送で受取るサービスを希望の場合 (A)

一般会員： ¥6,000円 学生会員： ¥3,000円

<サービス内容>

- ・ジャーナル (PiRS) の郵送による受け取り
- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- ・RSAIホームページへのアクセス
- ・ニューズレターの郵送による受け取り
- ・RSAIの会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス

○ジャーナルや情報への電子アクセスのみを希望の場合 (B)

一般会員： ¥1,200円 学生会員： ¥800円

<サービス内容>

- ・PiRSの電子コピー (Eメールによる受け取り)
- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引

と関連出版社の詳細情報の提供

- ・ RSAIホームページへのアクセス
- ・ ニュースレターの電子コピー（Eメールによる受け取り）
- ・ RSAIの会議への参加費割引
- ・ メンバーリストへのアクセス

<会員の入退会・継続、サービス区分の変更の希望>

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、新規に入会を希望される方は、希望するサービス区分を会費払込票の通信欄に記入してください。また、退会、サービス区分の変更等がある場合は、その旨、払込票の通信欄にご記入ください。（この通信欄の記入をもとにARSC事務局が、RSAI会員サービス提供の手続きを行います。）

<RSAIの会費納入>

希望するサービス内容の金額をARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

9. 総会報告

2010年度の総会は、大会中の12月4日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

議題及び要旨；

1) 学会活動報告及び活動方針

田淵隆俊会長より、2010年度の活動・方針を中心とした学会の運営方針が示されました。

2) 会員異動報告（前掲）

3) 2009年度決算（別掲）

監査委員（藤原徹先生(明海大学)、吾郷貴紀先生(高崎経済大学)）の監査を受けた2009年度決算書が報告され、原案どおり2009年度決算が承認されました。

4) 2011年度予算（別掲）

原案どおり2011年度予算が承認されました。

5) 応用地域学会2010年度坂下賞(前掲)

2010年度坂下賞は、前掲のとおり、名古屋大学の小川光先生が、授賞されました。

6) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

①応用地域学研究

応用地域学研究会の編集委員長の奥村誠先生（東北大学）から、No15の発刊の報告と、今回の大会で発表された論文の投稿や、若手の会員のみならずシニアの方の投稿、書評の対象の紹介等、幅広く対応をお願いしたい旨の報告がありました。

②RURDS

RURDSの編集については、編集委員長黒田達朗先生(名古屋大学)から、2010年度の発刊は、No.1はプリント中(2011年1月時点では配布済み)、No.2.3は、合併号として発刊することになりそうとの報告がありました。また、年3回の発刊を維持するため、テーマ設定をしての投稿呼びかけや、ゲスト・スペシャリスト特集等の企画を考えていくことも必要である旨の報告がありました。

7) 2011年度研究発表大会の開催について(前掲)

8) 2011年度アジア地域科学セミナーの開催について(前掲)

9) 事務局業務の効率化、RSAI会費の改定(前掲)

①事務局業務の効率化のために会員管理システムの導入とその費用が承認されました。

②RSAI会費の改定が承認されました。円高基調により、RSAIからの請求額と会費にかい離が生じていたために改定しました。

10) その他

坂下賞の選考においては、選考委員5名の中で推薦・選考していたが、2011年度から、候補者の推薦(自薦・他薦)は、会員全員から募るようになることが承認されました。推薦に関する詳細は、ホームページ、ニューズレター等で案内していく。

9. 事務局だより

ARSC事務局 宮本成雄

- **第24回 ARSC 研究発表大会**は、名古屋大学で開催され、今までになく多数の発表があり、大変な活況を呈しておりました。今大会の陣頭指揮を取られた大会委員長の黒田達朗先生の大変なご尽力をはじめ、名古屋大学の皆様、プログラム委員長を勤められた赤松 隆先生(東北大学)とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。
- **副会長の選挙**です。2011年度からの2年間会長を補佐し、また、2013年度からはARSC会長として、ARSCの運営にご尽力をいただく副会長を選出する大事な選挙です。年度末を控え、そして新年度への準備と、何かとご多忙の折かと思いますが、大変重要な選挙です。お忘れなきようお願い申し上げます。
- **地域科学に関連する分野の研究**に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。個人会員用の入会申込書はARSCのホームページ(<http://www.arsc.org/arscform-j.html>)より入手可能です。また、Emailによるお申し込みも受け付けておりますので、記入事項をARSCホームページにてご確認の上、必要事項を記入して clerk@arsc.org 宛てに Emailでお申し込み下さい。

2009年度決算

収入の部	2008年度決算		2009年度予算		2009年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	7,473,728		8,524,616	0	8,524,616	
2.個人会費収入	3,748,495		4,525,000	1,800	4,490,503	
3. RSAI会費	237,200		348,000	0	344,700	
4.賛助会費収入	650,000		1,100,000	0	700,000	
5.補助金(科学研究費補助)	0		0	0	0	
6.大会参加費収入	575,400		835,000	0	1,724,000	
(年次大会)	439,000		535,000	0	890,000	
(日中共同セミナー)	136,400		300,000	0	834,000	
7.大会開催寄付金	150,000		0	0	154,600	
8.利子収入	7,085		0	0	1,690	
9.雑誌販売(Back Number)	19,120		0	0	11,550	
10.その他	400,000		0	0	413,595	
(RURDS編集補助*)	400,000		0	0	400,000	
(繰越金差額修正)			0	0	13,595	
収入合計	13,261,028		15,332,616	1,800	16,365,254	0
(繰越金を除く収入合計)	5,787,300		6,808,000	1,800	7,840,638	

* (財)昭和経済研究所より


支出の部	2008年度決算		2009年度予算		2009年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	730,032		5,024,000	0	2,749,599	
(編集経費)			1,800,000	0	78,300	
(購読費)	730,032		3,224,000	0	2,671,299	
2.年報刊行費	1,069,061		1,050,000	0	729,600	
3.大会開催費	1,545,937		1,820,000	0	2,700,387	
(年次大会)	922,672		1,020,000	0	1,533,775	
(日中共同セミナー)	623,265		800,000	0	1,166,612	
4. RSAIへの送金	230,047		348,000	0	200,220	
5.坂下賞	121,000		121,000	0	121,000	
6.名簿印刷費	0		0	0	0	
7. ニュースレター等印刷費	84,305		110,000	0	107,877	
8.一般事務費	356,030		240,000	0	581,049	
(郵送費)	181,400		150,000	0	160,360	
(消耗品等)	22,970		20,000	0	8,259	
(謝金・交通費等)	133,460		50,000	0	390,790	
(銀行手数料)	18,200		20,000	0	21,640	
9.事務局費	600,000		600,000	0	600,000	
10.予備費	0		50,000	0	0	
支出合計	4,736,412		9,363,000	0	7,789,732	0
繰越金	8,524,616		5,969,616	1,800	8,575,522	0
ドル貨円換算(手数料を除く)			123,000			
繰越金合計	8,524,616		6,092,616		8,575,522	

注; 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。


2010年11月8日

監査委員

藤原 徹 

2010年11月15日

監査委員

吾郷貴紀 

2011年度予算書

収入の部	2009年度決算		2010年度予算		2011年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	8,524,616	0.00	8,575,522	0.00	7,788,122	
2.個人会費収入	4,490,503	0.00	4,575,000	1,800.00	4,575,000	1,500.00
3.RSAI会費	344,700	0.00	348,000	0.00	271,000	
4.賛助会費収入	700,000	0.00	1,100,000	0.00	1,000,000	
5.補助金(科学研究費補助)	0	0.00	0	0.00	0	
6.大会参加費収入	1,724,000	0.00	860,000	0.00	860,000	
(年次大会)	890,000	0.00	560,000	0.00	560,000	
(地域科学セミナー)	834,000	0.00	300,000	0.00	300,000	
7.大会開催寄付金	154,600	0.00	0	0.00	0	
8.利子収入	1,690	0.00	0	0.00	0	
9.雑誌販売(Back Number)	11,550	0.00	0	0.00	0	
10.その他	413,595	0.00	400,000	0.00	400,000	
(RURDS編集補助*)	400,000		400,000		400,000	
	13,595					
収入合計	16,365,254	0.00	15,858,522	1,800.00	14,894,122	1,500.00
(繰越金を除く収入合計)	7,840,638		7,283,000	1,800.00	7,106,000	1,500.00
(ドル貨を含む)			7,454,000		7,233,500	

支出の部	2009年度決算		2010年度予算		2011年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	2,749,599	0.00	3,781,400	0.00	3,601,400	
(編集発行費)	78,300	0.00	400,000	0.00	400,000	
(会員購読費)	2,671,299	0.00	3,381,400	0.00	3,201,400	
2.年報刊行費	729,600	0.00	1,050,000	0.00	1,050,000	
3.大会開催費	2,700,387	0.00	1,870,000	0.00	1,670,000	
(年次大会)	1,533,775	0.00	1,070,000	0.00	1,070,000	
(地域科学セミナー)	1,166,612	0.00	800,000	0.00	600,000	
4.RSAIへの送金	200,220	0.00	348,000	0.00	271,000	
5.坂下賞	121,000	0.00	121,000	0.00	121,000	
6.名簿印刷費	0	0.00	0	0.00	0	
7.ニュースレター等印刷費	107,877	0.00	100,000	0.00	20,000	
8.一般事務費	581,049	0.00	270,000	0.00	360,000	
(郵送費)	160,360	0.00	150,000	0.00	50,000	
(消耗品等)	8,259	0.00	20,000	0.00	20,000	
(交通費・謝金等)	390,790	0.00	80,000	0.00	100,000	
(銀行手数料)	21,640	0.00	20,000	0.00	20,000	
(システム管理費)					170,000	
9.事務局費	600,000	0.00	600,000	0.00	500,000	
10.予備費	0	0.00	50,000	0.00	50,000	
支出合計	7,789,732	0.00	8,190,400	0.00	7,643,400	
繰越金	8,575,522	0.00	7,668,122	1,800.00	7,250,722	1,500.00
ドル貨円換算(手数料を除く)			120,000		65,500	
繰越金合計	8,575,522		7,788,122		7,316,222	

注1; 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。